

# 少人数指導で学校が変わったか

福智町教育シンポジウム／福智町教育委員会主催

「教育のまち福智」を目指して、町単独予算で15人の教員を加配して1年あまり。いま、子どもたちの学力は、学習意欲は、どう変わったのでしょうか。1月18日に公民館金田分館で開かれた教育シンポジウム。地域・家庭・教育現場から選ばれた登壇者と277人の参加者が、少人数指導をテーマに教育について考え意見を交わしました。今回、その発言の中から主な内容を抜粋してお知らせします。

白石 福智町独自の施策、少人数指導のための教員加配が本年度から実施され、1年がたちとしていきます。そこで、この措置の課題や留意点などを共通理解し、さらなる有効活用に向け、みなさんと情報を共有したいと思えます。どうぞご意見をお願いいたします。

縄田 少人数学級は、1時間の授業が確実に増えます。また、分割授業では児童一人ひとりがどんな考えを持っているかを身近に把握することができ、ほとんどの子どもの発言機会を保つことができています。

船瀬 市場小では、算数を中心に2人以上の教師が授業を見る「ティーチング」指導で、一人ひとりに対応したきめ細やかな指導を行っています。そういった効果

が、学力の向上などに現れてきたのではないかと思われます。2学期末に行った子どもたちへのアンケート結果も反応が良く、子どもたちの学習意欲は、より良い方向に向かっていると思います。

村上 赤池中では、心の教育を大切に、IT授業と分割授業で一人ひとりのやる気を引き出す指導を行っています。一方で、いろいろな課題を抱え、不登校気味の生徒もいます。全生徒に対して、校長をはじめ担任以外の教師15人全員で個別相談を行い、学校や家庭で抱えた悩みを解決

るな悩みで教室の授業に入れない子どもたちにも学習権がある。その子たちのために、適心指導教室や保健室で勉強を教え、連絡のない子たちには家庭訪問、養護教諭が課題を持って毎日家に行くケースもあります。そのよつな中で学力のために、入り込みの授業や分割の授業を行っています。量的な緩和は全くありません。とにかく、今人数でできる限り走り回っている中学校ですから、すべてを見てほしいと思えます。

白石 先生がたがすべての時間を使っている中で、1クラス又増えることは単なる量的緩和ではなく、学校全体の先生がたに影響があるということを述べていただきました。谷口会長が言われる、家庭にそのことが本当に届いているのか、というのは、かなり厳しい指摘だと思います。

会場A 教育の現状について、特に少人数指導で学校が変わったと言われていますが、これは教師の立場から見ると、先ほど谷口会長が言われたように、家庭に届いていないか、素直な子どもが小学校から中学校に行くことと変わってしまったという状況が少なくなっていて、少人数学級で学力の向上を目指し、荒れた子どもがよくなっているというデータは、今後の教育の上で非常に効果があるのではないのでしょうか。徳久 一方的な講義形式の授業がほとんどなくなり、生徒はほとんど

いくことが大変重要で、それが子どもたちの思考力を伸ばすことにつながるのだと思えます。少人数学級でも能力のない先生なら学級崩壊は起こります。大人学級でも本当にいい先生なら学級崩壊は起きません。

船瀬 学級の状態が学力に大きな影響を及ぼすこともデータで示されています。ルールがきちんと守られている学級、人間関係が保たれている学級は満足度が高く、子どもたちの学習意欲も高い。つまり人数はもちろん、質を問うことが大事なのです。そのためには教師の指導力が必要ですが、学級の人数が増えれば担任の負担が多くなり、満足度の高い学級の維持も難しくなります。学力向上のためには、荒れた学級を作らないことが教育環境のためにも重要なのではないのでしょうか。

谷口 先ほどから授業の中で先生たちの手応えをお話しいただいていますが、果たしてそれが家庭まで届いているのでしょうか。少人数指導でどこが変わったのか、どこを見て

2百時間、主要教科の授業が受けられないことになってしまいます。会場D このような大きなことを話し合うには時間が短く感じます。休日などを使って1日かけてもいいのではないのでしょうか。今回の措置は、授業に対する体制が良くなった程度にしか感じません。以前は50人、60人の学級でも先生は授業ができていたと思えます。

会場D わたしには教育現場の先生方の言い訳、自分たちのおかれた立場のアピールとしか聞こえません。教員を町費で採用し、学校臨時職員も含めて、その費用が年間約1億円、その費用以上の効果を上げているのでしょうか。それが分かるしかりとした資料を配布してほしい。会場E 子どもたち一人ひとりを大切にするために国も変わらなければならない。さらに国ができないことを46道府県が取り組んでいます。残念ながら福岡県は何の措置もして

ほしいのかというポイントを端的に教えてください。

縄田 研究発表の場や授業参観を通して授業の質を感じていただくような取り組みを行っています。

船瀬 子どもたちの学習に向かう姿勢が素直で、人間関係が保たれていること、家庭学習に対する先生がたのきめ細かい指導が、家庭へ届いているメッセージなのではないでしょうか。

村上 中学教師は子どもたちを授業の土俵に乗せるために四苦八苦しています。学校に来させ、教室に入れるのが大変な子もいます。いろいろ

いませぬ。その中で福智町は、県がしてくれない中で少人数学級をやってくれている。子どもを一生懸命に考えているこの町を本当に誇らしく思っています。

白石 今回のシンポジウムで、加配措置を受けている学校では量的に子どもに当てる時間が増えているという。また、そのメリットを学校全体のものと、成果などを保護者にも伝えていく義務があることを共通理解することができました。この機会をスタートとして、継続しながら、より効果のあるものにしていくのが我々の義務ではないかと思えます。学校は家庭の協力が不可欠です。ぜひ、みなさんのお力添えをお願いします。学校を閉じたいと思いません。本日はありがとうございました。

もつと時間をかけて話し合うべき費用以上の効果を上げているのか 会場  
単独で取り組む町を誇らしく思う 会場

コーディネーター

シンポジスト



筑豊教育事務所指導主事 白石 毅氏



町教育委員会指導主事 徳久 公博氏



金田小学校教頭 縄田 和之氏



町PTA連合会会長 谷口 博幸氏



赤池中学校教諭 村上 きぬよ氏



市場小学校教諭 船瀬 安仁氏

